

令和4年1月7日

榊 裕之

国立大学法人奈良国立大学機構大学総括理事候補者について

文部科学大臣より国立大学法人奈良国立大学機構の理事長となるべき者に指名された榊裕之は、同機構の大学総括理事候補者として下記の者を選び、文部科学大臣へ申し出ることとした。なお、選任においては、統合による新法人の発足後、傘下の二大学の運営が円滑に継続されることが極めて重要であることを考慮するとともに、令和3年12月28日に開催された合同理事長選考会議の意見を聴き、賛同を得た上で、選任した。

記

- 1 現職・氏名 国立大学法人奈良教育大学
理事、副学長・宮下 俊也
- 2 任期 令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年間）
- 3 選任理由

国立大学法人奈良国立大学機構は、奈良教育大学と奈良女子大学のそれぞれにおける教育・研究の質的向上を図るとともに、両学間の有機的協力および奈良地区の教育・研究・文化機関との連携協力を通じて、「奈良カレッジズ」を構築し、教育・研究の高度化を推進する方針である。これらの点を踏まえ、奈良国立大学機構合同理事長選考会議は、両大学の各々に大学総括理事を置くことを決定した。

大学総括理事（奈良教育大学長）は、理事長と緊密に連携し、新規に発足する奈良国立大学機構の使命を達成するために不可欠の責務を果たすと同時に、奈良教育大学を継続的・効果的に運営し、教育・研究の質を一段と高める必要がある。

宮下俊也氏は、平成27年10月より、奈良教育大学の理事・副学長として加藤久雄学長を支え、大学運営の中核を共に担い、教員養成と研修の融合や大学院改組など次代の教員養成プログラムの充実に大きく寄与してきた。また、奈良国立大学機構の発足に向けて、奈良教育大学と奈良女子大学との協力関係を強め、機構設置構想書のとり纏めなどでも中心的役割を果たしてきている。これらの実績から、同氏は奈良国立大学機構の使命達成ならびに奈良教育大学の円滑で効果的な運営と発展に不可欠な資質・能力・意欲を備えていると判断される。以上の理由により、同氏は、令和4年4月1日から2年間の任期を務める大学総括理事（奈良教育大学長）の候補者として、適任であるとの判断に至った。

- 1 現職・氏名 国立大学法人奈良女子大学
学長・今岡 春樹
- 2 任期 令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年間）
- 3 選任理由

国立大学法人奈良国立大学機構は、奈良教育大学と奈良女子大学のそれぞれにおける教育・研究の質的向上を図るとともに、両学間の有機的協力および奈良地区の教育・研究・文化機関との連携協力を通じて「奈良カレッジズ」を構築し、教育・研究の高度化を推進する方針である。これらの点を踏まえ、奈良国立大学機構合同理事長選考会議は、両大学の各々に大学総括理事を置くことを決定した。

大学総括理事（奈良女子大学長）は、理事長と緊密に連携し、新規に発足する奈良国立大学機構の使命を達成するために不可欠の責務を果たすとともに、奈良女子大学を継続的・効果的に運営し、教育・研究の質を一段と高める必要がある。

今岡春樹氏は、平成25年4月より、奈良女子大学長として、同大学の業務を総理し、小規模総合大学としての強みを発揮するための取組みを進め、女子大学初の工学部を設置するなど、高等教育刷新に独自の貢献をしてきた。また、奈良国立大学機構の発足に向け、奈良教育大学と奈良女子大学との協力関係を築くために尽力するとともに、機構の将来ビジョンとして、奈良カレッジズ構想を示すなど、先導的役割を果たしている。これらの実績から、同氏は奈良国立大学機構の使命達成ならびに奈良女子大学の円滑で効果的な運営と発展に必要な資質・能力・意欲を備えていると判断される。以上の理由により、同氏は、令和4年4月1日から2年間の任期を務める大学総括理事（奈良女子大学長）の候補者として、適任であるとの判断に至った。